

平成19年4月20日

〒590-0494  
京都大学原子炉実験所  
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25  
蒼天社政治情報センター  
代表・石川鐵也



## 公開論議における結論Ⅱ

平成19年3月31日第585-50-49159-1号配達記録郵便での「公開論議における結論」に対する小出論(4月17日付)拝見しました。

前回、小出さんの今後をも憂え、当該論議を終了させることを提言しましたが、まだ物足りないのでしょうか、続けたい旨を記されました。

机上の論理に付き合うことは私の本意ではありませんが、「仕方ありません」、小出さんが納得するまで付き合うことにしました。

### — 記 —

#### 1. 「原子力発電の代替エネルギーについて」

小出さん、「今現在日本に55基の原子力発電所が動いていることは事実であり、私(小出)はそれを否定しているのではありません」と述べながら、「即刻廃炉」を唱える愚にも気づいてください。

本月16日の朝日新聞科学欄に「宇宙の太陽光 未来のエネルギーに」と題する記事が掲載されました。原子力発電に反対する小出さんには希望の光に見えたかも知れませんが、「実用化したら100万キロワットの近赤外線レーザーが地上に降り注ぐが、飛行機や鳥に当たっても問題ないよう、面積あたりの強度は太陽光の4倍程度に抑える」に注視してください。

そうです。聡明な小出さんなら理解されたと思いますが、面積あたりの強度を上げれば脅威のレーザー兵器に転用されるのです。もし実用化されることになれば、平和利用より軍事優先となるかも知れません。核のみが兵器転用できるわけではないのです。それこそ歴史が証明しています。

また、「私は未来をどう作るかを議論してきたのです」と述べるのであれば、過去の開発状況をグラフ化し、「米国にしても、ヨーロッパにして、原子力からの撤退は着実に進むでしょう」と発言するだけでは詮無いことです。小出さん、中国、インドの首脳は何と言っていますか。イギリスや東欧諸国の首脳は何と言っていますか。全体的な事実を語ってください。小出さん、米国、ヨーロッパでは、いつ、原子力からの撤退を開始すると言うのですか？「いつかは撤退する」といった無責任論では、「夢想家の戯言」と断じざるを得ません。

#### 2. 「安定供給について」

今回の小出論にも新事実が記されておられませんでした。反論する必要もありません。

### 3. [核燃料サイクルについて]

今回の小出論にも新事実は記されておりませんが、事実誤認されている点について見解を述べます。

原子力長計目標が、「実用化」から「技術体系の確立」に変わったのも事実ですし、「そんな計画を作り続けてきた学者も官僚も誰一人として責任をとろうとしません」も事実です。しかし、「原子力関係者はますます無責任の度合いを強めています」は事実誤認です。“無責任な学者”“無責任な官僚”もまだ存在しますが、責任に目覚めた学者や技術者、官僚が増えてきたのも事実です。

以前にも書きましたが、そういった責任に目覚めた者の足を引っ張り、無責任な人々を助けているのが、無責任な反対論を唱える人々なのです。何故、何もしない関係者が誰一人として責任を問われないのでしょうか。無責任な関係者が、無責任な反対論者にその責任を転換しているからです。

また、原子力の平和利用に要する資金と同様の金額を太陽光利用の研究に投入すれば、究極のレーザー兵器が開発される可能性は大でありましょう。小出さんの言葉を借りれば、「米国の原爆（レーザー）製造を牽引したのが、超一流の学者たちであったことはすでに書きましたし、日本の学者たちもまた原爆（レーザー）開発に従事していたのです」となりますからね。

なお、「歴史の勉強をしなすよう」勧められましたが、しなすなくても、戦時と平時における人生観の変遷など、（これまでの論議内容から推察し）小出さんよりは承知しているものと自負しております。その上で断言しますが、私の承知している限りにおいては、各兵器の材料など製造している者は一人もおられません。小出さんのお仲間については承知しておりませんので悪しからず。

### 4. [高レベル放射性廃棄物の処理・処分について]

小出さん、「議論を求めるのであれば、相手の主張もしっかり理解するように努めてください」と書かれています。小出さんは、私の主張を理解しているのですか？理解しているのであれば――

①どこが、どの様に安全が保証されないのか？今後の研究で、と言いながら誰が研究していると言うのか？小出さんらが反対すれば解決するのか・・・？

②地上保管施設を地下に作れば地下保管となり、地上保管が良いとする小出論とは矛盾するが、その具体的な仕様をどうするのか？また、電力本社の地下ならば、安全性等については一切考慮する必要がないのか？地上保管はどこで・・・？

③何かあった時に対処できると言うが、その何かとは一体どういった状況を想定しているのか？対処時間をも考慮すれば、地上より離れた深地層となるが・・・？

④前項①同様、安全性を保証されない部分とは？

⑤いずれは受け入れさせられてしまいます、ということは自治体が拒否しても受け入れさせられるということか・・・？

⑥前項⑤同様。

⑦原子力施設の誘致は住民に選出された首町らが行ったことであり、押し付けられたとの主張は誤りでは・・・？

⑧47都道府県の住民が反対するだけでは、何らの解決にも繋がらず、子孫に負の遺産を残す結果となる訳だが・・・？

⑨国の政策のどこが、どの様に誤ったのか？また、我が国の役人（頻繁に人事異動が実施される中）で、地方を疲弊させ、もって原子力施設を受け入れさせる、などといった高等戦術を駆使できる者は存在しないと思うが、何をもって一連の繋がりを立証するのか・・・？

⑩「自身も持たないと」言うが、小出さんは地層処分のスペシャリストなのか？小出さん言うところの「安全に処分」するための具体的な条件とは何か・・・？

⑪国は、長期管理の難しさをも考慮したからこそ地層処分を決定したのではなかったのか。にもかかわらず、地上施設で保管した方が良い、とはこれ如何に・・・？  
— といった疑問をまず明らかにしてください。

私は、小出さんの主張（「今できる唯一の手段はそれを生命環境に漏れないようにすることだけです。日本の国は、ガラスと混ぜて固めた高レベル放射性廃棄物を地下に埋め捨てにしようとしています。しかし、この毒物を生命環境から隔離しておくべき時間の長さは100万年なのです。日本は世界一の地震国で、万が一にでも処分場が地震に直撃されてしまえば、安全である道理がありません」）をも理解すればこそ、「国や事業者は、文献調査及び地質調査の了解と、処分場適地選定を一連の流れ作業とするのではなく、その都度情報を公開し、積極的な議論を展開させなければなりません。幌延や東濃における調査・研究（地下施設の建設を含む）の成果を、各地の地層調査の結果に照らし合わせ、地上施設での保管が良いのか、地下施設での保管が良いのか、それとも深地層での処分が良いのかを明確にし、地層処分ならどこがベストなのか、どういった地層がベターであり、その地域はどこかといった情報をきちんと公開し、その上で決定（担当組織はこの段階で設立）すれば国民理解も得られる」と説き、調査・研究施設の誘致にも助力してきました。

小出さんは、こういった私の主張、私の行動のどこが、どの様に誤っていると言うのでしょうか。小出さんはこれまで、反対論を唱える以外にどういった解決案を提示されたのですか。

責任ある立場にある者は、危険性を認識すればするほど、より高度な安全対策を考慮し、補償問題をも考慮しなければならないのです。

責任を忘れた小出さんには理解できないでしょうが、「このごみを生み出したことに責任のある都会にするべきだと私(小出)は主張しています。なぜなら、そうでもしなければ、事態の深刻さを広く議論し、理解することができないからです」といった小出論は、「テロの恐怖を教える」と言って関係なき者を銃撃するテロリストの精神構造と同様なのです。

意見の分割は民主社会の常識であり、「その内容は健全性を示すバロメーター」と言っても過言ではありません。住民が望み、住民が反対する。そこから議論が生じ、民主主義とは何かを学ぶのです。学校で、真のゆとりある（個人こじんに考えさせる）教育を実施してこなかった弊害ですが・・・。東洋町も健全です。小出さんも科学者ならば、感情論で結論付ける行為は止めましょう。

以上